国指定重要無形民俗文化財

西馬音内盆踊り

にしもない

8月16日,17日,18日

優美
夢幻の世界へ。

秋田県内陸南部の羽後町で毎年8月16日～18日の3日間行われる西馬音内盆踊り。

700年を超える歴史を持ち、日本三大盆踊りに数えられる国指定の重要無形民俗文化財。

町の中心通りで焚かれるかがり火を囲み、男性の奏でる勇ましくにぎやかなお囃子と、色鮮やかな衣装で優雅に舞う女性の艶やかさが「不調和の美」を構築し、見る者を幻想の世界に引きずり込む。

秋田県　羽後町

踊り継いで七百余年

◎起源　2つの踊りが融合か

西馬音内盆踊りは、時代を隔てて始まった2つの踊りが融合したものではないかと言い伝えられています。

一つは今から七百年余り、鎌倉時代の正応年間（1288～93）に源親という修行僧が蔵王権現（現在の西馬音内御嶽神社）の境内で始めたとされる豊年祈願の踊り。

もう一つは、およそ四百年前、山形城主の最上氏との戦いで滅んだ西馬音内城主・小野寺一族を偲び、臣下たちが宝泉寺（西馬音内寺町）の境内で行ったとされる盆供養の踊り。

これら二つの踊りがいつの頃からか合流し、江戸時代後期の天明年間（1781～1789）に現在の西馬音内本町通りに場所を移したのだと伝えられています。

◎昭和10年　全国デビュー

昭和10年「第9回全国郷土舞踊民謡大会」（日本青年館主催、東京）への出場を機に、地域の娯楽であった西馬音内盆踊りは大きく再創造されます。

伝統的な踊りの振り付けを学び直し、衣装の細かい配色や染め方の方法を揃え、囃子方には三味線、鼓、鉦を加えてよりリズミカルにするなど、「見せるための踊り」としての形を熱心に追求していきました。

この公演をきっかけに、他に類を見ない優美な踊りとして一躍全国に知られる存在となりました。

昭和10年「第9回全国郷土舞踊民謡大会」出場

◎国の重要無形民俗文化財へ

西馬音内盆踊りは敗戦の影響で昭和20年に初めて中止されたものの、翌年には再開され、昭和22年に発足した「西馬音内盆踊保存会」を中心に後継者の育成や全国各所での公演活動を続けています。

昭和46年には、「秋田県無形文化財」及び「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」への指定を受けました。

そして、昭和56年1月21日、盆踊りとしては全国初となる国の重要無形民俗文化財に指定され、現在では徳島の「阿波踊り」、岐阜の「郡上おどり」と並んで日本三大盆踊りの一つに称されるまでになりました。

起源と沿革

正応年間（1288～93）
○蔵王権現（現在の西馬音内御嶽神社）の境内で豊作祈願の踊り始まる

関ヶ原合戦前後（1593～1601）
○西馬音内城主・小野寺茂道一族は悲運が重なり、滅亡。遺臣たちが供養の盆踊り始める

天明年間（1781～88）
○盆踊りの場所が宝泉寺境内から本町通りに移る。送り盆の日から晴天5日間踊った

昭和10年（1935）
○東京で開かれた「第9回全国郷土舞踊民謡大会」（日本青年館主催）に県の推薦で出場

昭和20年（1945）
○終戦の混乱のため中止に

昭和22年（1947）
○「西馬音内盆踊保存会」結成

昭和30年（1955）
○雄勝郡西部の一町六村が合併し羽後町が誕生

昭和46年（1971）
○秋田県無形文化財に指定

昭和56年（1981）
○国の重要無形民俗文化財に指定。4月、サンフランシスコ桜祭りに参加

平成17年（2005）
○「西馬音内盆踊り会館」が本町通りに完成

衣装の種類

西馬音内盆踊りの最大の特徴は何といってもその衣装の美しさです。踊り衣装には「端縫い（はぬい）衣装」と「藍染め（あいぞめ）浴衣」の2種類があります。

端縫い

「端縫い」は、数種類の絹布を左右対称にパッチワークのように組み合わせて縫った着物で、布を接ぎ合わせることから「接ぎ（はぎ）衣装」とも呼ばれる女性専用の衣装です。

大切に保管してきた古い絹布を使い、図柄や配色にこだわって作られた芸術的なこの衣装は、「踊りが上手になった」と家族や周囲から認められて初めて「着ることを許される」格式の高いものです。

藍染め

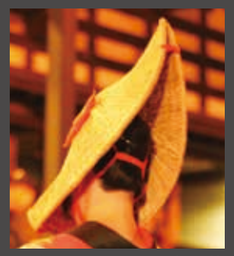
藍染め浴衣は男女兼用の衣装で、その多くは秋田県南部の伝統的な染技法を用いて手絞りで作られています。もともと「端縫い」を作ることができたのは旧家など裕福な家柄の人だけで、「藍染め」こそが最もポピュラーな衣装でした。

使い込むほどに味が出るこの衣装は、「端縫い」の絢爛さとはまた違う洗練された美しさをもたらします。

編み笠、彦三頭巾

「編み笠」は、一般的な半月型より前後の端が大きく反った形をしているのが特徴で、顔が見えないよう目深に被って笠の前後を赤い紐や布でとめます。

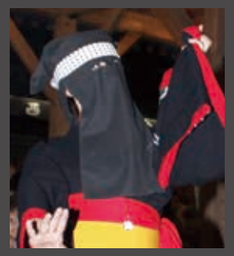
端縫いでも藍染めでも着用でき、襟元からのぞく首すじが美しく浮かび上がります。



編み笠

「彦三頭巾」は、目元に穴の開いた袋状の覆面を頭から被って鉢巻をしてとめるのが特徴です。

農作業用の日除け・虫除けの黒布からきたものだとか、歌舞伎の黒子からヒントを得たとか由来は定かではありませんが、亡者踊りとも称される特異な雰囲気を醸し出し見る者を魅了します。彦三頭巾をするときは藍染めを着用します。



彦三頭巾

また、西馬音内盆踊りの衣装に欠かせないもう一つの特徴が「編み笠」と「彦三（ひこさ）頭巾」です。

2種類の踊り

西馬音内盆踊りの振りは、「音頭」と「がんけ」の2種類で構成されています。

「音頭」は、優雅で流れるような上方風の美しい踊りです。

江戸時代の西馬音内の町は、北前船によって京都・大阪と経済的につながっていたため、その文化的影響が及んでいるのではないかと言われています。振り付けは微妙に異なる1番と2番とがあり、交互に繰り返して踊られます。もう一方の「がんけ」に比べると覚えやすく、初心者向けであり、子供が最初に習う振りでもあります。

「がんけ」は、「音頭」に比べて踊りのテンポが速いのが特徴で、少し難易度の高い踊りです。名前の由来は、月光の夜を飛ぶ雁の姿を連想した「雁形（がんけい）」、仏教の布教活動を意味する「勧化（かんげ）」、現世の悲運を悼み来世の幸運を願う「願生化生（がんしょうけしょう）」など諸説あります。こちらも振り付けは2種類あり、特に2番の輪を描くように横に1回転する動きは「輪廻転生」を意味するとも言われ、亡者踊りと称される所以でもあります。

お囃子の構成と楽曲

お囃子の楽器の編成は、笛、三味線、大太鼓、小太鼓、鼓（つづみ）、鉦（かね）などです。これに地口・甚句の歌い手が加わります。笛と三味線は複数人で、それ以外の楽器は1名ずつ担当します。歌い手が鼓や鉦を兼ねることもあります。西馬音内盆踊りの本番では、囃子方は路上にせり出すように建てられる特設の櫓の上に陣取り、浴衣に肩衣（太鼓打ちはたすき掛け）をして全員が鉢巻姿で演奏します。

また、お囃子の楽曲には、寄せ太鼓、音頭、とり音頭、がんけの4種類があります。

「寄せ太鼓」は、盆踊りの前奏としてみんなに集合を呼びかけるために演奏されます。小気味よい太鼓の連打と甲高く響く笛の早いリズムが会場の雰囲気を盛り上げる勇ましい演奏で、踊りが終わった最後の締めにも流されます。

「音頭」は、踊りのための演奏で地口（じぐち）と一緒に囃されます。最初の2小節で囃子方による「ヤートーセー　ヨイワナ　セッチャ」の掛け声で始まり、3小節目から踊りに入ります。以降は地口を伴って6小節のフレーズが繰り返し演奏されます。

「とり音頭」も地口と一緒に囃される踊りのための演奏で、音頭の終了の区切りから前奏なく直接入っていきます。ここでは笛が主役となって哀調と高揚感のあるメロディが奏でられ、24小節が1フレーズとなって展開されます。1度の演奏の中で音頭からとり音頭へ、とり音頭からまた音頭への移行が幾度か繰り返されます。

「がんけ」は、緩やかな調子で甚句（じんく）が唄われる演奏です。音頭とは対照的に曲調の変化には乏しいですが、落ち着いた雰囲気を漂わせて哀調を響かせます。踊りの最後はがんけで締められる決まりで、本番の終了間近にはテンポに大幅な緩急がつけられ、踊り手たちとの駆け引きが会場を盛り上げます。

地口（音頭）

秋田音頭に類似していて、前口上がないなどの違いはありますが、基本的に「8、8、9、8、8、9」の6句からなる節回しのルールは共通です。

その内容は口から出放題の即興的なものであり、野手情緒あふれる文句、ユーモアに富んだ笑い話、世情への風刺や権力層へのささやかな皮肉、農民特有の素朴なエロティシズムを匂わせるものなど、多彩な性格をあわせもっています。

歌詞の一例

♪時勢はどうでも　世間はなんでも　踊りこ踊たんせ
　日本開闢　天の岩戸も　踊りで夜が明けた

♪踊りの上手も　見目のよいのも　土地柄血筋柄
　なんでもかんでも　嫁コを欲しがら　ここから貰たんせ

♪おら家のお多福ぁ　めったにない事　びんとて髪結った
　お寺さ行くどて　そば屋さひかかって　皆に笑われた

甚句（がんけ）

日本民謡の伝統的な形式で、「7、7、7、5」の4句で詩が構成されます。

現在唄われているものの多くは、昭和初期に懸賞募集されたもので、それまでは秋田甚句のまがいものや遠島甚句、酒屋唄などが唄われていました。

その内容は情緒豊かで格調高く、冗談めかした陽気な雰囲気の強い音頭の地口とは対照的に、がんけの踊りに味わい深い芸術性をもたらしています。

歌詞の一例

♪お盆恋しや　かがり火恋し　まして踊り子　なお恋し

♪揃うた揃うたよ　踊り子揃うた　稲の出穂より　なお揃うた

♪月は更けゆく　踊りは冴ゆる　雲井はるかに　雁の声

♪お前百まで　わしゃ九十九まで　ともに白髪の　生えるまで

西馬音内盆踊り会館

「西馬音内盆踊り」の活動拠点として、さらには町の観光交流拠点として、2005年8月にオープンしました。

館内では、100年を超える歴史を持つ芸術的な踊り衣装や、本番の様子を再現した手づくりの50体ものミニチュア人形が展示されているほか、200インチの大型スクリーンで盆踊りの映像資料を鑑賞できます。

また、体験交流ホールでは、毎月第2土曜日（8月のみ第1日曜日）に西馬音内盆踊りの定期公演（有料）を行っており、季節を問わず生のお囃子と踊りを味わうことができます。

（入場無料／9:00～17:00／月曜定休（祝日の場合翌日）、年末年始／☎0183-78-4187）

藍と端縫いまつり

西馬音内盆踊り本番を前に行われる踊り衣装の虫干しを兼ねて、衣装を持つ家々が一斉に藍染めや端縫いを庭先に展示するイベントです。

より多くの人々に、西馬音内盆踊りの魅力と踊り衣装にちなんだ歴史と文化、そして藍染めと端縫いの魅力を発見してもらうため始められました。

展示する家庭がそれぞれに趣向を凝らし、町がさながら一つの美術館のようになります。

（毎年8月第1日曜日／10:00～17:00／西馬音内地区）

◁ミニのれんを掲げたお家が目印

西馬音内盆踊り一般練習会

西馬音内盆踊りの普及・伝承のために「西馬音内盆踊保存会」によって開催されている一般の方向けの練習会です。

申込み不要でどなたでも参加でき、保存会員メンバーが初心者から上級者までレベルに合わせた指導を行います。

お問い合わせは西馬音内盆踊り会館まで。

毎月第3土曜日（1、8月除く）　19:30～21:00
コミュニティセンター（4月～12月）、
西馬音内盆踊り会館（2月、3月）

西馬音内盆踊りQ&A

Q. 「西馬音内」の語源は?

A. 諸説ありますが、アイヌ語で「ニシ」は「谷」、「モ」は「小さな」、「ナイ」は「川」などを意味すると言われており、「小川が流れる谷合の場所」と解釈できるそうです。実際に、山間部から流れ込む西馬音内川（かつては馬音川（ばおんがわ）とよばれた）は、町の中心部を横断するように流れています。

Q. 顔を隠して踊るのはなぜ?

A. 身分の違いを気にせず踊りを楽しむためだったとか、自己を滅して亡き先祖の霊と一体となるためだとか、若い娘が殿様に見初められて連れていかれるのを防ぐためだとか様々なことが言われています。秋田県人のシャイな性格を解放する仮面の役割もあるのかもしれません。

Q. 盆踊りの開催内容は?

A. 西馬音内盆踊りの本番は大きく2部に分かれています。前半は音頭のみで子どもや初心者の踊り手が多く、休憩をはさんだ21時過ぎからは、がんけも囃され、ベテランの踊り手たちも徐々に加わってきます。終盤ではお囃子のリズムと踊りのテンポが緩急を繰り返し、互いの挑発で会場の雰囲気が最高潮に達したところでフィナーレを迎えます。

Q. 観覧席はありますか?

A. 会場内に有料観覧席を設けています。事前申込みによる抽選販売と当日の先着販売があります。詳しくは羽後町観光物産協会のHPからご確認ください。
なお、観覧席以外の場所でもイス等を持ち込みしての観覧は可能です。

（他のお客様の迷惑にならないよう持込品の管理などは自己責任でお願いします。）

Q. 会場近くに駐車場はありますか?

A. 盆踊り期間中は、町役場敷地内などの会場周辺に臨時駐車場（有料）を設けています。駐車場は午後1時より使用可能で、駐車券を提示することで一時的に外出が可能です。
20:00~21:00頃には満車になることが多いのでお気を付けください。

Q. 雨天の場合はどうなりますか?

A. 悪天候が見込まれる場合は町役場の隣の「総合体育館」で開催します。変更となる場合は当日の14時頃を目途に公式発表があります。
なお、有料観覧席券を購入済みの方については、体育館会場内に対応する指定席を設けております。

Q. 踊りに参加できますか?

A. 西馬音内盆踊りは、亡き先祖への思いや豊作を願う心によって大切に受け継がれてきた伝統行事ですので、衣装や踊りの振り付けにも細かいルールやしきたりがあります。このような点を十分にご理解いただける方であれば、どなたでも参加することができます。
なお、町内では踊り衣装の貸し出しサービスなどは行っておりません。

Q. どこに泊まればいいですか?

A. 羽後町内には宿泊施設が数件しかなく、盆踊りの時期の宿泊予約はかなり早い段階で埋まってしまいます。
そのため、遠方から来られる方は隣接する湯沢市や横手市に宿泊することが多いようですが、こちらも間近になると満室となる可能性がありますので、宿をお探しの場合は早めの検討をお勧めします。

そば案内

羽後町では「西馬音内そば」が有名で、たくさんのお店が営業しています。
各店のこだわりの味をご賞味ください。

盆踊り時間　19:30～23:00（18日最終日は23:30まで）

交通規制　盆踊り会場　14:00～24:00
会場周辺　18:00～24:00（18日最終日は24:30まで）

交　通　案　内

鉄道

東京駅
- 秋田新幹線 1時間40分 → 仙台駅
- 秋田新幹線 1時間40分 → 大曲駅
- 奥羽本線 45分 → 湯沢駅
- 山形新幹線 3時間30分 → 新庄駅
- 奥羽本線 1時間 → 湯沢駅

湯沢駅
- 路線バス20分 タクシー15分 → 羽後町
- 奥羽本線 1時間40分 → 秋田駅

飛行機

- 新千歳空港 JAL/55分 ANA/65分 → 秋田空港
- 羽田空港 JAL/70分 ANA/65分 → 秋田空港
- 中部国際空港 ANA/85分 → 秋田空港
- 伊丹空港 JAL/85分 ANA/95分 → 秋田空港

秋田空港
- リムジンバス 40分 → 秋田駅
- エアポートライナー(要予約) 1時間30分 → 羽後町

高速道路

東北自動車道
- 仙台宮城IC 130km 北上JCT
- 50km

秋田自動車道
- 秋田北IC 19km 河辺JCT 53km 横手IC
- 湯沢横手道路 13.5km 湯沢IC
- 国道398号線 8km → 羽後町
- 県道56・72号線 8.6km

フェリー

- 苫小牧東港 12時間 新日本海フェリー → 秋田港
- 敦賀港 12時間 新潟港 6時間40分 → 秋田港

(発行)羽後町観光物産協会

〒012-1131 秋田県雄勝郡羽後町西馬音内字中野200

Tel.0183-55-8635　Fax.0183-55-8636

E-mail:kanko@hanuinosato.jp

公式 HP